

# 第 214 回浜田市教育委員会定例会議事録

日 時：令和 5 年 4 月 28 日（金） 13：40～14：45

場 所：浜田市役所本庁 4 階講堂 AB

出席者：岡田教育長 杉野本委員 花田委員 岡山委員 倉本委員

事務局 草刈部長 藤井課長 山口課長 永田担当課長 鳥居室長 山本課長

書記：日ノ原係長 川村主任主事

新型コロナウイルス感染防止に伴う出席者の調整のため、議題、報告資料のなかった田中担当部長、猪木迫担当部長、松山担当課長 濱見室長、岩崎分室長、戸田分室長、佐々木分室長、石原分室長は、欠席。

## 議事

### 1 教育長報告

### 2 議題

(1) 令和 5 年度教育委員会学校訪問について（資料 1）

(2) 令和 5 年度総合教育会議の議題について（資料 2）

### 3 部長・課長等報告事項

### 4 その他

(1) その他

### 1 教育長報告

岡田教育長

新学期が始まり、もう早いものでひと月が過ぎようとしている。委員方には、入学式あるいは入園式などに出席していただき、大変ありがとうございました。学校や幼稚園に実際に行くと、コロナの感染症対策も少し緩やかになり、子どもたちの顔が見られるようになった。やはり先生方あるいは子ども達がお互いの表情を見合って学校生活を送ることができるということは、本当に人間関係を作っていく上で大事なことだと痛感している。

今日は後ほど今年度の総合教育会議の取組について議論をしていきたいと考えているので、どうか忌憚のないご意見をちょうだいしたいと思う。

それでは、資料の教育長報告に沿って、先月の定例会以降の主な活動内容について報告が必要なことを中心に説明をさせていただきたいと思う。

① 4月4日（火）教育長講演（浜田亀山ライオンズクラブ講師例会・ニューキャッスルホテル）

教育長講演として、浜田亀山ライオンズクラブの講師例会に参加をしてきた。教育長になってなかなか人前で講演する機会はないが、ここに招かれて、浜田市の教育について、ということで30分少々語らせていただいた。力を入れているふるさと教育のほかに、児童生徒数の推移、また不登校者数や、特別な配慮を必要とする子どもの数、いじめの件数、それから教職員の時間外勤務の現状などについて説明をさせていただき、学校だけではなく、家庭や地域と一緒に、子どもの人権や自主性を大切にして、その成長を見守っていきたいということをお伝えさせていただいた。

② 4月12日（水）三市三町教育長会総会（大田市：～13日）

三市三町の教育長会の総会が開催されたが、この中で浜田教育事務所から、このたびの教職員人事異動の概要について説明を受けた。それから、学校教育や社会教育スタッフの関係業務についての説明と、また学校訪問の実施要領についての説明もあった。教育事務所長による学校訪問が5月23日から始まる。ここでは、学校経営目標の実現や教職員組織の活性化についてのお話を伺いながら、働き方改革についての具体的な取り組みについてヒアリングをされるということをお伺いしている。

③ 4月24日（月）浜田市臨時議会

4月24日に浜田市の臨時議会が開催された。この中で、小中学校への緊急校務支援員の配置のための補正予算を計上した。詳細については、この後、教育部長の報告の中で説明してもらいたいと思う。

④ 4月26日（水）島根県都市教育長会定例会・市町村教育長会議・学力育成会議（松江市）

島根県都市教育長会定例会に併せて、市町村教育長会議、それから学力育成会議が開催された。この中で5つの項目について意見交換をした。

1つ目が学力育成に関わる取り組みの推進、2つ目が幼小連携と接続の推進、3つ目に放課後児童クラブにおける学習習慣定着支援について、4つ目に不登校対策についてであった。そして最後に、5つ目が教職員不足と働き方改革の推進についてという非常に今の大きな教育課題について、短い間だが、教育

長の皆さんから、本当に闊達な意見が出されたと感じている。

野津教育長からは、冒頭に、幼小連携、放課後児童クラブにおける学習支援に特に力を入れたいという挨拶があった。私は浜田市も幼児教育や幼小連携について力を入れていくため、ぜひ浜田教育事務所の幼児教育担当指導主事を継続配置して欲しいということ要望したが、これはなかなか難しいということで、簡単に却下をされた。それから、家庭学習の定着を目指す場合に時間の長さだけではなく学習の質が高まるような、学び方の視野が広がるようなメッセージをぜひ併せて発信をして欲しいということなども発言した。県の方でこの意見交換の場でまとめられるかどうか分からないが、なかなかすぐに結論が出ることばかりではなかったという気はしている。

1 か月間の報告は以上である。

何かご質問等あれば願います。

#### 質疑応答

杉野本委員

三市三町教育長会議で、所長さんからこのたびの人事についての話があったという。新聞等でも、小中だけで30人ぐらいの教職員が不足している、担任は何とかできるということで、ゼロということはないという話である。浜田市自体は、小中で定数にいかない、不足している部分がどのくらいあるか教えてもらいたい。

岡田教育長

常勤の教員や講師を配置しなければならない中で、今現在9校で9人の常勤の先生方が配置できずに、非常勤を配置している状況である。非常勤を配置している学校については、教員免許を持っている方を探すのは非常に困難な状況のため、免許がなくても公務の手伝いができる方をこれから入れることができるということで、それについて今回の補正予算で要求もさせていただいた。

それからこの後、今の時点で育休補充等、これから休みを取られる予定の先生がすでに3人おられることがわかっているが、この3人の方についてはまだ今のところ見込みが立っていないという状況である。県内全体の中でも、非常勤講師の先生すら配置できない、完全に欠員の状況ということが発生していて、浜田市はそういう事例は今のところないが、本当に教員不足というのは深刻な問題になっていると感じている。

杉野本委員

小中のバランスはどうか。

山口課長

小学校が5校5人、中学校が4校4人、このうち小学校の5校

杉野本委員  
岡田教育長  
各委員

のうち1校は、5月1日から非常勤から常勤に任用替えをするため、1つは解消すると思う。こういう状況である。

ありがとうございます。現場を応援したいと思う。

その他はよろしいか。

特になし。

## 2 議題

### (1) 令和5年度教育委員会学校訪問について（資料1）

日ノ原係長

訪問対象校として、小学校16校、中学校9校の25校、実施期間については、6月下旬から7月までと記載している。

訪問者については、教育長、教育委員方4名、教育総務課長、総務企画係長の7名で考えている。昨年度は教育長、教育委員方、私の6名で行かせていただいたが、今回教育総務課長も新しく来られたということもあり、教育総務課長も加えて7名とさせてもらっている。

訪問内容としては、基本的には先に校内視察を行って子どもたちの様子を見て、その後、管理職とのヒアリングという流れで進めていきたいと思っている。時間等によっては前後反対になるかもしれないがご了承いただければと思う。

意見交換のテーマとして、令和4年度までの新しいものから順に、裏面にわたって平成30年度までのものを掲載している。

実施期間について、例年ここ最近では7月に開催している。昨年度でいうと、6日間、5日と半日、それから最終的に変更等があり、5日と半日2日の合計7日間ということになっている。今回6月下旬と7月はなかなか日程が組めず、7月20日が終業式のため、もしかしたら7月だけでは全部回りきれない恐れがある。その際には、令和2年度にコロナの関係で10月に学校訪問させてもらったこともあり、例えば7月と10月に全部の25校回るというかたちで組ませてもらって良いものかどうか。そうではなく、同じ時期がいいということであれば、7月に組めなければ10月、そういったところについてご意見いただきたいと思う。

また、意見交換テーマについて、本日のところで委員方から伺って、本日決まらないようであれば5月に持ち越すことも可能であると思っている。ご審議のほどよろしく願います。

岡田教育長

実施時期について、7月中に何とかぎりぎり詰めるか、厳しい場合に一部だけ2学期に入ってからという予定にするか、あるいは

倉本委員

すべてを2学期に移してしまうということについて、この辺りのご意見を委員方からちょうだいしたいと思うがいかがか。

私はまだ初めてで、中身はどうなるかわからないが、もし、その意見交換をして、助言なりアドバイスなり、参考になるものがそこで出てくるのであれば、できるだけ年度の早い方がよい。年度遅くなって中旬から言われても、もう回復する期間に限られる。できれば早い方がよい気がする。ただ、その日程にはまるかどうかはまた別の問題として、スケジュール的にはその方がいいと思う。

岡田教育長  
花田委員

ありがとうございます。その他はいかがか。

以前10月に行った時に、落ち着いた状況で見られた。7月だと学期末で、どこに行っても書写をやっている状況で、10月も割とよいと思ったが、今のお聞きすると、確かにとすごく思った。時々伝えたいことが発生する場合があります、そういうことがあると、やはり早く手を打っていただいた方がよい。でも今本当おっしゃるとおりだと思い聞かせてもらった。

岡田教育長  
岡山委員

その他はいかがか。

学校の都合もあると思う。こちらからなかなかこれでというのは言いにくいところではあるが、本当に回らせてもらったところで、花田委員が言われるように、やはり7月になってしまうとどこに行っても課題を静かにやっている、普段の様子ではないことが多いというふうには感じている。そうすると、やはり10月になってもそれも悪くないと思う。

杉野本委員

例えば、前半は小学校、後半は中学校ということもあり得るが、校区ごとに一緒にやった方が話をするのもいいこともあるし、むしろその連携の部分や移動の大変さを考えたときに、そちらの方がいいだろうということで、時期をあけるのは見方や視点が変わってくる気もする。前半なり後半なり、自分は後半見たことがないため、この訪問の目的をどういうところに、先ほどおっしゃった、こちらからもある程度強くメッセージを伝えていきたいという部分でいくのか、とにかく現場の状況をしっかりと見させてもらい、意見を聞かせてもらうのか、その目的により優先し、時期が決まるほうがいいという気がする。

岡田教育長

ちょうど5月から教育事務所長の訪問で全学校を回る。これで4日近くかかって、どうしてもそのあとになるため、6月に議会が始まると動きにくくなることもあり、7月にやるとすると、どうして

	もこの時期になってしまう。確かに学校を分けるという考え方もあるかもしれない。
倉本委員	学校を校種ごとに分けた方がいいか。
日ノ原係長	どちらかを7月に、もう一方を2学期にということか。
岡田教育長	先に行くとしたら小学校か。
倉本委員	小学校はこの時期に落ち着いているか。
日ノ原係長	大体小学校でいうと書写が多くなっている。中学校でいうと弁論大会がある時期である。なるべく調整はしてみる。
岡田教育長	昨年1学期の終わりにどちらも見ていて、特に小学校行くと、書写の時間が確かに多かったと感じている。秋口からは新しい取組があったりするため、小学校については、例えば秋に計画させていただき、中学校を1学期の間に回るということでもいいと思う。もしそれでよろしければ調整をさせていただこうと思う。全部回る計画と、2回に分けて回る計画と2段階で考えておくか。この件は事務局に一任させていただいてよろしいか。
各委員	はい。
岡田教育長	実際に学校を回った時の意見交換のテーマについてはどのようなことをすればよろしいか。 この辺は、次の総合教育会議のこととも関連がもしかしたら出てくるかもしれないため、ここを保留させてもらい、次の議題の説明に移らせていただけたらと思う。

(2) 令和5年度総合教育会議の議題について（資料2）

日ノ原係長	資料2をご覧ください、先般、日程調整のご協力いただきありがとうございました。日にちだけ先に調整させていただいたが、第1回を令和5年5月10日（水）15時から、第2回を令和5年7月10日（月）10時30分からで考えている。 第1回については、下のテーマのところで、令和4年度の振り返りについて、令和4年度の教育課題に関するデータ等の数字を基に振り返りを行うとともに、今後どういった課題に取り組んでいくべきかというようなどころについて、意見交換を行うかたちで考えている。 第2回については、昨年度はICTを活用した学力育成について総合教育会議で意見交換をさせていただいたが、今回はICT機器を活用した授業改善研究指定校である美川小学校の授業を実際に見て、それを見た上で、今後のICT教育の推進の可能性について
-------	--

意見交換を行うというかたちで、実際の学校現場を市長と一緒に見てというようなかたちで考えている。こちらについて、ご審議いただければと思うのでよろしく願います。

岡田教育長

実はこの総合教育会議については、市長とも、どういうやり方でやるかということで協議をしている。教育委員会から伺ったのは、ICTの活用事例を実際に市長に見てもらい意見交換しましょうということと、今小学校の理科の実験について、外部講師にお願いをして小学校4年生で取り組む予定としているため、2回、そちらも今度日を改めて、見てもらいながら意見交換しようという気で臨んだが、全体の振り返りが先だということで、その中で教育課題を少し明らかにしていこうということがあり、今こちらには、1回目にその全体の振り返り、2回目にICT関係の方向と考えているが、場合によっては3回目もあるかもしれない。

委員方にも当然そのICTなりの様子は、その時に見てもらうが、他の学校の様子をもし見ようと思えば、事前に学校訪問などで回ったり、意見を聞いたりしておいて臨むという手だてもあろうかと思う。

そうすると、先ほどの学校訪問をどうするかという時に前半は中学校を見て、ICTのモデル校ということで美川小学校は7月中に見るが、秋口以降に、小学校の授業の様子などを見させていただき、その中で市長とも一緒にというようなことで、より多くの学校を見ていただいて、意見交換が進んでいくということもあろうかと思う。ただ、市長がこの1回目の会議の時にそれでいこうかということになるかどうかかわからないが、教育委員会としてはその方向で臨ませてもらえばいいかと思っているがよろしいか。

各委員

はい。

岡田教育長

それでは、この総合教育会議の議題について教育委員会としての方向感は今いただいたため、最初の議題に戻るが、学校訪問についても、前半中学校、それから2学期に小学校ということで一応分けるということで日程調整をしたいと思う。ありがとうございました。

日ノ原係長

議題1の意見交換のテーマについてご審議いただければと思う。

岡田教育長

それでは、教育委員会の学校訪問のテーマについて、改めてここでご意見いただきたいと思うが、いかがか。

テーマは毎年変わっているが、学校のいじめであったり不登校の状況などについて、これはずっと毎年追っていくため、ここは

同じように聞かせていただくということである。

それと小学校については先ほど言ったように、理数教育、理数嫌いにならないよう、興味を持ってもらうための取組として、外部講師による実験など進めていくため、1つはその辺りの理数教育のことについて議題にしてもいいかと私は個人的には思っているが、いかがか。

倉本委員

いいと思う。要するに浜田市の課題が、学力向上絶対的なものであると考えていて、その中で今回は理数教育に特化するというのは当然だろうと思うため、それはそれでいいと思う。

岡田教育長  
杉野本委員

ありがとうございます。大体そういった方向でよろしいか。

いじめや不登校も、こちらの状況を聞くことによって学校の取組の度合いというか深さというか、その辺りもこちらに伝わってきて、普段の考え方を共有していく部分でも、いい機会であると思うため、これをずっと続けていく必要がある気がする。

岡田教育長

不登校については先ほど県の学力育成会議の中の項目の一つとして、県の方も問題意識を持っている。そこでは、特例校についての検討が市町村でどのぐらい進んでいくのかという質問がまずあり、市町村で特例校について検討しているところはほとんどなかったと思う。ただ浜田でも議会でそうした質問が出たように、学力について保障する機能はもちろん必要だが、学力ということ以外に、まずは安心して居られる場所を学校の中でも少し用意していくような手だても、その前段としてあるのではということも私も発言させてもらった。そうしたことを考えていこうとすると学校の考え方なども聞いていかないといけないと思うため、この辺りが小学校なのか中学校なのかということも出てくると思うが、少しそうしたところも意識をしてヒアリングできたらというふうに思う。

限られた時間であまり広げすぎるとぼやけてしまうため、意見交換のテーマとしては、いじめ等の問題行動や不登校の現状や取り組みについてお伺いする。これは小中でお伺いするということと、小学校では、実験なども踏まえて、理数教育の取組について確認させていただく。中学校も、もちろん実験がないまでも、理数教育を含めて、その取組について伺う。特に、中学校は高校進学ということがついてくる。

倉本委員

今年の高校入試で、県全体の平均点や標準偏差でいくと、数学は標準偏差が縮まってきて、学力差がなくなっている。むしろ

ろ大きくなっているのは、英語。ここ数年、あれだけ数学の学力向上に取り組んでこられた成果がやはり少しずつ出ていると思うが、標準偏差が非常に小さくなる。例えば浜田高校で模試をやった差がつくのは、数学・英語・国語という順に、標準偏差の大きさが並んでいるが、高校入試の結果は、数学が国語の次に小さい。それはやはり取組の成果だろうという気がする。ここ3年、4年続いている。

岡田教育長

今回、浜田高校の理数科への昨年の入学者が少ないという危機感を持って、そのような進学先として考えてもらうことも、中学校の校長や進路指導の先生方と少し話してきたようなこともあるため、今年も、その流れも受けながら少し理数教育のことについて確認をしていきたいと思う。ありがとうございました。

今日の議題1、2については、以上の方向性で進めさせていただきたいと思う。

### 3 部長・課長等報告事項

草刈部長

令和5年6月定例会議日程（案）（資料3）

資料3をご覧ください、令和5年6月定例会議日程案という資料である。6月の定例会議は、6月16日から7月3日まで、18日間の予定で行われる。定例会議の前に、教育委員会に関係するところで、まずは17日の総務文教委員会、26日の全員協議会が議会の前で行われる。案件自体はまだだが、ほぼこれで変わることはないと思うが、こういうようなかたちで、6月定例会が行われる予定となっている。

令和5年度 一般会計補正予算（第1号）説明資料（資料4）

続いて資料4をご覧ください、こちらの方は4月24日（月）に開かれた、臨時会議の一般会計補正予算第1号の説明資料の抜粋となっている。この一般会計の第1号の補正予算だが、大きく分けて4つ内容があり、国の物価高騰対策を受けて支給する住民税非課税世帯等への臨時特別給付金に関するもの、低所得の子育て世代への生活支援特別給付金に係るもの、延長されたマイナポイントの取得支援に係るもの、それから小中学校の緊急校務支援員の配置に係るものについて調整を行っているということである。

予算規模について補正額は316,293千円ということで、補正

後の予算総額が 37,706,293 千円となっている。4 ページに歳出側の部分が、最初のところで教育長からの説明があったが、緊急校務支援員の配置事業というかたちで、これは県 10/10 の補助事業であるが、常勤教員が未配置となり欠員等が生じている小・中学校に対して、教職員の校務負担を軽減するために、緊急校務支援員を配置するという内容になっている。今回の 8,881 千円の予算としては、対象の小中学校 12 校に対して 12 人の配置をするということになっている。

財源については、2 ページの歳入 16 番、県支出金にあります緊急校務支援員配置事業費という 8,881 千円が全額あっているというようなかたちになっている。

資料 4 については以上である。

ただいまの資料 3、4 のところでご質問等あればお願いします。特になし。

岡田教育長  
各委員

藤井課長

行事等予定表（資料 5）

資料 5 をご覧いただき、4 月 28 日から 5 月 31 日までの予定を記載している。委員方へ出席をお願いしている行事については、丸をつけている。まず、5 月 25 日（木）の小体連陸上大会である。こちらはお手元に別にご案内をお配りしている。これまで、コロナ禍で縮小や無観客等での実施となっていたが、この度は観客席を設けての実施と伺っているため、ぜひご出席をお願いしたいと思う。

次に 5 月 29 日、第 215 回教育委員会定例会が予定されているため、こちらの方もご出席をよろしく願います。あと、申し訳ございません、資料の場所のところ、「本長」の「長」が間違っており、正しくは庁舎の「庁」である。

資料 5 については以上である。

資料 5 の行事予定について、ご質問等あればお願いします。特になし。

岡田教育長  
各委員

山口課長

令和 5 年度学校職員名簿（資料 6）

資料 6 をご覧いただき、今年度の学校の校長、教頭等の職員名簿である。黄色い部分が変更になった方になるため、ご確認いただきたい。

#### 令和5年度学校別児童生徒数一覧表（資料7）

資料7をご覧いただき、4月1日現在の児童生徒数である。裏面の一番下に小・中学校全体を載せている。小学校が昨年に比べ60人減、中学校はほぼ横ばい、全体で59人児童生徒数が減って、全体で、3,568人という状況である。

一方、学級数を見ていただくと、子どもは減っているが、学級編成のこともあり、一部特別支援学級が増えた状況である。全体で学級数が増えるため、こういったことで教員が必ず必要というかたちになる。こういった学級数増も、教員不足の要因になっているというふうに思っている。

資料7については以上である。

#### 小中学校の不登校数の推移について（資料8）

資料8をご覧いただき、令和4年度の不登校者数の速報値がまとまったため、取り急ぎ報告させていただく。1ページ目だが、一番下段が令和4年度の不登校の数である。小中合わせて、30日以上長期欠席127人と今までで一番多い人数になっている。昨年度から100人を超えた状態で推移している。

2ページ目をご覧いただき、これが入学年度ごとの児童生徒の不登校の変遷である。色の濃い部分の3学期のところを足すと、127人という総数と一緒のかたちになる。この傾向、やはり中学校3年になると、進路が見えてくるということもあり、不登校の数が少しは減ってくるが、最近の傾向として、特に小学校1年生、入学の年に不登校が1学期から出るということがある。若年の段階から不登校傾向が続いている傾向のため、今まで高学年になるにつれて出てくるが、低学年から持ち上がるというかたちが徐々にある。

今現在こういった状況であるが、先ほど教育長から不登校特例校等の話もあった。実際、各学校においても校内の居場所、例えば石見小学校だとホットルーム、国府小学校でもあると思う。こういった居場所を設置して、そこで学習なりを行っている。こういった校内で実施するにもやはり見守る学校支援員や、本来、教員なり指導監督できる方がいればいいが、そういった対応が、校内で何とか教員をやりくりしているのが実情である。

具体的な背景は、また分析して別の機会でご報告させていただ

く。本日は速報ということで報告させていただく。

令和4年度市内中学校卒業生（令和5年3月卒業）の進路状況について（資料9）

資料9をご覧ください、令和4年度卒業生の高校進学状況である。令和4年度は410人卒業した。そのうち市内は特別支援学校も入れると262人。63.9%が市内の学校に進学している。

こういった状況で例年と大きくは変わらないが、やはり今年は浜田高校理数科、かなり高校側も事前にPRされて、理数科の推薦入試が初めて導入され、関心が高かったということもあり、今年は増加している。

下段に参考とあるが、これが一般選抜と推薦選抜の構成である。やはり、今年も2割相当が推薦というかたちで進学している。今後、令和7年度入試から、特に公立学校の入試制度が大きく変わり、今までの校長推薦が自己推薦に変わり、今から総合選抜型にどんどん引っ張っていくと思うため、生徒たちも今から自分の考えを面接等で説明できるように学校も対応していかないとと思っている。

裏面は、中学校ごとの進学先になる。やはり土地勘があったり、学校によって、年度は違うが、希望する学科等があったりするため、こういった傾向になっている。また目を通していただければと思う。

令和4年度「浜田市の人物読本 ふるさとの50人」活用について（資料10）

資料10をご覧ください、毎年、小学校6年生にふるさとの50人という人物読本を配っている。昨年度の学校における活用状況である。

やはり教科ごと、国語・社会それぞれ単元ごとにこういったふるさとの偉人を扱った授業構成をしているため、こういった実績をまとめている。一部外部講師、特に金城だと澄川さんなどまちづくりセンターの方が学校に出向いて、外部講師ということで説明された授業も取り組んでおられ、三隅は和紙に特化し、久保田さんを取り扱う授業をしている。この取組は継続して続けていきたいと思っている。

令和4年度青少年サポートセンターの利用状況について（資料11）

資料11をご覧ください、青少年サポートセンター利用状況である。今年度から学校教育課、私ども兼務になり、私の方から説明させていただく。令和4年度青少年サポートセンターの相談件数だが、延べで1,522人となっている。令和3年度は1,743人で、13%程度、相談件数自体は減っている。中身については、個人の問題が全体としては少し増えている。個人の問題というのが、こころの問題だったり、発達の問題だったり、病気のことだったり、いろんなパターンだが、こういった状況である。

次に相談ケースである。上の相談件数と数値は合わないが、これは継続して相談しているケースというかたちで、人数を掲載している。下の人数の説明記載があるが、令和4年度当初74人からスタートし、新規の8人が追加である。年度中合計82人の方が相談されている。年度の終わりのところで、相談を継続するかという意味を確認し、8人の方が相談・支援は終了というかたちになり、年度末の段階では、74人。令和5年度は74人から、新たに相談をスタートしている状況である。

裏面をご覧ください、今回、8人が相談等いらなくなった要因だが、サポートセンターの支援年齢が40歳という区切りがあり、40歳到達した方が2名、学校への進学というかたちで浜田を離れるという方が1名、その他は自分の意思で必要ないというかたちである。その中に、本人死亡ということであるが、これは病気でお亡くなりになったということで、その他の方に含まれている。

青少年サポートセンターも就労の支援をしているが、実際利用している方の無就業の状況である。やはり引きこもりだけではなく、ニートの不労の方もいらっしゃるという状況だけのご理解ください。

青少年サポートセンターの利用目的だが、居場所ということもある。実際、令和4年度居場所利用として利用したのは、1,214人ということで、延べだが増えている状況である。1つは山びこ学級、教育支援センターが併設されているということで、山びこ学級が14時に終わって、保護者さんが迎えにいらっしゃる間の居場所というかたちで、青少年サポートセンターを利用

されているという実態があるため、そういったことも増加の要因である。コロナが少し落ち着いた年度であったため、外に出るといふかたちで、学習室、調理室、作業、いろんな教室でやっているが、そういったことでいろんなかたちで参加が増えている状況である。

説明については以上である。

岡田教育長

ただいまの資料 6 から資料 11 までの中で、質問等があればお願いします。

資料 8 の小中学校の不登校数の推移についてだが、小中全体の割合、表の一番右下を見てもらうと、大体 3.5%程度は今学校に行きづらくなっている、30 日以上欠席しているという状況で、この 3.5 という数字もここ数年伸びてきている。しかし、これより前、さらに 10 年以上前と比べた時は、もう 1%台からということになる。倍増している、あるいは 3 倍に近いかたちまで増えているということがあり、この不登校数に対してどういう手だてを打っていくのかということが、今本当にどこでも問題になっている。

杉野本委員

島根県の不登校は全国トップレベル。県内でこの 3.5 という数字はどの辺の位置付けなのか。

岡田教育長

それはまた資料を基に、一度、不登校の現状について細かく話をする会議を持つか。

杉野本委員

コロナがあって休みやすくなったというのも、全国的なものであると思うが、特に浜田が高いということがあるなら、少しその辺の理由を考えていく必要があると思う。

岡田教育長

生徒指導の指導主事の先生方も一緒にどこかでこれだけ特化して情報を共有する会議を持つか。

各委員

はい。

岡田教育長

では、そのようにさせていただきたいと思う。

その他いかがか。

資料 9 の中学校の卒業者が市内に進学している状況というのは、経年的に見たときにどうなっているか。

山口課長

市内であるため、浜田高校、浜田商業高校、浜田水産高校、あと特別支援学校を足すと、ちょうど中段の浜田市内の高等学校への進学状況(A)+(B)+(C)+(D)、この欄である。

岡田教育長

去年よりは若干下がったが、3、4年前に比べると少し増えてきたというふうに見ればよいか。

山口課長

はい。特に益田へ進学されていた明誠、益田東、ここが数年減少している傾向が著しいところである。

岡田教育長  
各委員

その他はよろしいか。

特になし。

永田担当課長

令和5年度まちづくりセンター職員名簿(資料12)

資料12をご覧ください、今年度のまちづくりセンター職員名簿である。今年度4月1日現在、13人の新しいセンター長と主事を任用してスタートしている。内訳は、センター長が新たに4人、主事の方が9人である。

ただ1点、旭地域の今市まちづくりセンターの主事がまだ決まっておらず、今現在、面接をして5月1日からの任用に向けた手続きをしているというところで、5月になれば全員、全センターにセンター長と主事が配置されて運営されていくということである。

資料12については以上である。

令和5年度まちづくりコーディネーター(資料13)

資料13をご覧ください、令和5年度まちづくりコーディネーターの名簿である。

昨年度からの変更点としては、昨年度までは、檜谷コーディネーターがおられたが、一身上の都合により退職をされ、新たにこの名簿の一番下、吉本美和子コーディネーターが4月1日より採用ということで、この方は、昨年度までは黒沢まちづくりセンターの主事として勤務されていた。

資料の下のところに書いてある担当地域については調整中というところで、これまで各コーディネーター、浜田、金城、旭、弥栄、三隅ということで、担当地域をもちながらいろいろと地域に出向いて活動してきたところであるが、コーディネーターの制度が3年目を迎えるというところと、専門分野もある等、1人がひとつの地域を担当するよりは、複数の担当を持った方がいいだろうというような話し合いをしており、今現在調整中ということで載せている。

方向性とする、金城と旭を毛利さん、大屋さん、それから弥栄と三隅を小田原さん、吉本さんというようなかたちと、あと、浜田の佐々木さんについては、コーディネーターのひとつ

の大きな目的として、地区まちづくり推進委員会の設立というところがあるため、佐々木さんについては単独で浜田地域の担当となりながら、設立に向けては全てのコーディネーターが各地域に入って、設立に向けた取り組みをしていくということで、今年度進めているところである。

資料 13 については以上である。

浜田市社会教育アドバイザーの委嘱及び令和 4 年度の活動について（資料 14）

資料 14 をご覧いただき、浜田市社会教育アドバイザーの委嘱及び令和 4 年度の活動についてということで、この社会教育アドバイザーについては平成 30 年度から委嘱しており、6 年目を迎える。

アドバイザーについては、今年度も長畑実氏に委嘱をしている。

設置の目的としては、市民の社会教育活動を推進し、地域づくりを担う人材の育成、地域と学校の連携・協働を進めていく上で、浜田市の今後の社会教育の方向性、社会教育施設のあり方について指導・助言をもらうことを目的に設置をしているところである。

2 番目の職務としては、「浜田市教育大綱」の理念実現のための調査・研究を始め 8 つの職務の遂行のために委嘱をしている。

アドバイザーについては先ほど申し上げたが、長畑実氏に委嘱をしている。委嘱の期間としては、令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日までの 1 年間としている。

5 番目の令和 4 年度の活動報告ということで抜粋させていただいているが、昨年 4 月 26 日にリハビリテーションカレッジ島根からの依頼で、非常勤講師として「ボランティア論」を年間 15 回担当するということから、裏面の 20 番目の 3 月 28 日、令和 4 年度第 3 回協働のまちづくり検討部会に出席をして会長として議事進行を行ったということで、主立ったところを記載している。

特に長畑先生におかれては、まちづくり総合交付金の課題解決特別事業の選考委員会の委員や、協働のまちづくり検討部会の会長として、社会教育アドバイザーとしての任務を果たしていただいているところである。

岡田教育長	資料 14 については以上である。 ただいま説明のあった内容について質問等があればお願いします。
各委員	特になし。
鳥居室長	<p>令和 4 年度学力育成総合対策事業実績報告書（資料 15）</p> <p>資料 15 をご覧いただき、いろいろな事業が入っているため、少し抽出をさせていただく。</p> <p>先ほど総合教育会議のことがあったが、ICT 関係で少し報告させていただきたいと思う。</p> <p>26 ページを見ていただくと、事業評価を掲載している。</p> <p>美川小学校が何を目指したかということ、事業評価の最初のところに書いているが、主体的・対話的に学び、思考力・判断力・表現力を高めていく、ここを目指して事業を実施された。どのようになったのかというのは、それ以前のところのページに出ている。</p> <p>四角枠のところは美川小学校からの報告書から少し抜粋させていただいて載せている。27 ページには、その辺のところを総括したものを載せている。</p> <p>四角枠の下のところ、昨年度の周布小学校指定校、初年度だったということで、普段使いの ICT、これを目指して行った。これは初年度の適切な取組だったなというふうに昨年度評価をさせてもらっている。</p> <p>2 段落目、美川小学校では普段使いの ICT、これももちろん推進するんだということでされたが、2 段落目の 3 行目の終わりぐらいからのところ、普段使いの成果は見られているということ。</p> <p>ただし、目指したところの思考力・判断力・表現力の育成に向けた授業改善についてはちょっと課題があった。</p> <p>その課題は何かということ、個人思考、ペアやグループでの活動、ここでも ICT を使ってやっているが、そのあと、学級全体でもっと深めていくということについて課題がある。これは美川小学校自身もこのことを分析しておられる。</p> <p>次年度はここに向かって取組をするという方向性を出しておられるので、非常に適切な取組をしていただいたのではないかなというふうに思っている。</p>

それから下段、このページの一番下の段落であるが、この成果物として、授業実践例を各学年2例ずつ提出していただいている。

それから、浜田市も出しているが、美川小学校は美川小学校版ということで、情報活用能力系統表、それから、情報モラル系統表、これも学校独自のものを作成されて提出をいただいている。これらについては成果報告ということで、冊子にして各学校へ印刷をして配布させていただいている。

ICTの活用、指定校の状況については以上である。

今年度から始めた新規事業が2つほどあるため、それについて簡単に説明をさせていただく。

ひとつは、小学校の算数の授業改善をしようということで、33ページに総括をしているため、ご覧いただきたい。環太平洋大学の前田教授にアドバイザーとして入っていただいている。

3の事業評価の最初のところの行に書いてあるが、およそ100名、延べ100名の教員が、前田教授が関わっているところで参加をしているということで、前田教授が提唱している授業改善の視点、その辺のところは普及された。

以前も報告させていただいているが、これが学校へ広がりつつあるということが成果であったというふうに思う。

課題であるが、2段落目の終わりの方、7行目の終わりあたりから、提示問題の量というのは、いわゆる解く問題の量のことである。ファシリテーター、子どもたちの話し合いを進めていく教師の役割だが、この辺のところは先ほど言ったところの成果があったが、やはり成果でもありこれが課題だということで、この事業は継続していかなくてはいけないというのが我々の評価である。

もう1つ国語教育があるが、35ページに事業評価を載せている。四角枠が学校からの報告書だが、これがすべてかなと思っている。原井小学校の学校教育の重点目標が、「気付き・考え・創り出す」だが、これを学習過程に位置付けながら、子どもと気付きというところで、どんな学習を取り組んでいったらいいのかという学習計画を子どもと一緒に考えるところから始められた。そこで子どもたちの意欲が増していったというのが成果だというふうに思う。

それから四角枠の中の3つ目である。「声を出して読むこと」、ここは基本中の基本だということで全校挙げて取り組まれた。我々としては、分析とか特徴的な取組が今ひとつかなというふうに評価しているため、36ページの表の上に記載しているが、本事業を継続して行う、継続して深めていってもらふ必要があると思う。

今年度は要約学習に取り組んでくださいということをご私の方から提案をしている。取り組んでいただけるということで、5月1日には烏田先生に来ていただき、学校全体で研修をするという方向で、新たな一步を踏み出す予定になっている。

資料15について、大変簡単な説明で申し訳ないが、以上である。

#### 第1回（4月）市校長会資料（資料16）

資料16をご覧ください、校長会の資料である。今年度の学力向上推進室が行うことについて広報したというふうにお考えいただければと思う。

3番のところで、先程の理数教育にも関わるが、学力向上推進室の学校訪問指導を各学校年間2回以上としている。教科に関する訪問指導である。その中で、昨年度までは算数・数学、これを必ず1回入れてくださいとされていたが、丸の2番目のところをご覧ください、今年度は理科、小学校の場合は生活科が理科に密接に関わるため生活科、これらを含め、2回のうちの1回は必ず算数・数学、理科、生活科の訪問指導としてくださいとしている。

4番の小学校科学教室実施事業についてである。ここには書いていないが、今の状況を申し上げる。広島のごども文化科学館から、講師の方を3名紹介していただいた。その3名の講師にアプローチしたところ、3名ともいいですよということで、3名の体制で今年度やっていくということになっている。年齢が70歳前後というところで、電話でいろんなやりとりをしているが、非常に意欲的で、しっかりやるというようなところでお話をいただいている。どこかの小学校に講師が出られないことが起こると困ると思っていたが、昨日の段階で2人ほど回答をいただいで全て埋まったため、全ての学校で講師がいないということにはなくなったということで胸をなでおろしている。今後も

<p>岡田教育長</p>	<p>講師の調整をしながら学校へ開催日時の周知をしていく。ほとんどが1学期の開催になっている。なるべく早くやりたいが、2学期が1つだけである。</p> <p>資料16については以上である。</p> <p>ただいまの資料15、16について、ご質問等あればお願いします。</p>
<p>各委員</p>	<p>特になし。</p>
<p>山本課長</p>	<p>清水雅治侍ジャパンコーチの市長表敬及び歓迎セレモニーの実施について(資料17)</p> <p>資料17をご覧いただき、清水雅治侍ジャパンコーチの市長表敬及び歓迎セレモニーの実施についてである。</p> <p>去る4月4日、WBCにおいて侍ジャパンのコーチとして出場をされた浜田市出身の清水雅治氏が、優勝報告のために市長を表敬された。当日は、表敬に先立って市役所本庁舎正面入口において簡単な歓迎セレモニーを行い、花束の贈呈をさせていただいた。その後、市長表敬をしていただき、自身の金メダルを披露されたり、大会における感想や興味深いエピソードをお話いただいたりした。清水氏においては、今年度、浜田市のエキスパート指導者として、小中学生への技術指導や、指導者への研修等を行っていただくこととなっている。</p> <p>以上である。</p>
<p>岡田教育長 各委員</p>	<p>ただいまの件についてご質問はあるか。</p> <p>特になし。</p>

#### 4 その他

##### (1) その他

<p>岡田教育長</p>	<p>事務局からその他何かあるか。</p>
<p>日ノ原係長</p>	<p>特になし。</p>
<p>岡田教育長</p>	<p>その他のところで、委員方からご報告やご質問があればお願いします。</p>
<p>各委員</p>	<p>特になし。</p>

#### 次回定例会日程

定例会 5月29日(月) 13時30分から 浜田市役所本庁4階講堂 AB

#### 次々回定例会日程

定例会 6月28日(水) 13時30分から 北分庁舎2階会議室1

14:45 終了